



DSANJ Bio Conference

資料作成ガイドライン

基盤技術編

はじめに	2
資料全体について	2
「表紙」について	2
「Background to study」について	4
「Summary of study」について	5
「Advantage of this study...」について	7
「Plan for practical application ...」について	9
「Reference」について	10
「Related Information」について	10

DSANJ Bio Conference 事務局本部

作成日 2012.06.04

更新日 2018.03.26

はじめに

初めて“conference”に参加される先生も多く、それらの先生方のご要望により本ガイドラインを作成しました。

作成いただく資料は、おおむね学会発表のスライドに準じたもので結構ですが、事務局本部（編集員）は企業側への配布を前提として、本ガイドラインの観点から資料を拝見いたしますので、是非ご一読参考にして頂くようお願い申し上げます。

アカデミアの先生方には、慣れない記載や内容もあるかもしれませんが、これまでの conference での企業サイドの要望なども多く織り込んでおります。マッチングの成功確率向上のためにも、可能な限りご対応いただきますようお願い申し上げます。

最終化した資料は PDF 化し、conference の開催前に参加企業に配布いたします。また、著作権は大阪商工会議所とし、**企業には転用を禁じておりますが、機密保持の観点から資料内容は非機密情報のみで作成をお願いいたします。**

【英語での資料作成について】

DSANJ Bio Conference では、ここ数年で海外製薬企業の担当者（ここでは、外資系製薬企業の日本法人に籍を持たれているが、当該企業のグローバル研究所にレポートラインを持たれている方、を指します）が多く参加をされていることから、特に「研究の背景」「研究概要」のスライドは英語での作成をお勧めしております。

これらの海外製薬企業から参加される方々は、直接の面談報告先が日本人以外の方となるため、研究成果の基本部分を英語で作成いただくことにより、当該企業での評価の迅速化、評価者の最適化（適切な社内研究者による評価）が可能になります。

本 conference は、学会発表ではなく、製薬企業との連携（パートナーリング）を目的とした会となりますので、英語化は必須ではございませんが、先生方のパートナーリング候補企業の選択肢を広げていただく上でも、上記内容を推奨するものでございます。

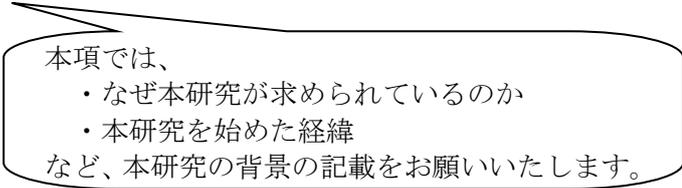
先生がどのような企業との連携を希望されるかをご検討の上、本件のご検討をお願いいたします。

資料全体について

1) 指定フォーマット

- ・ 別途、事務局から提供されるパワーポイントのフォーマットをご使用ください。各ページの左下に著作権名「大阪商工会議所」が記載されていますので、削除されませんようお願いいたします。
- ・ 初稿フォーマットに記載されている「ガイド文言」は削除をお願いいたします。
- ・ 初稿フォーマット内に記載の吹き出しは、事務局からのコメントとなりますので、こちらも削除をお願いいたします。

例)



本項では、

- ・なぜ本研究が求められているのか
- ・本研究を始めた経緯

など、本研究の背景の記載をお願いいたします。

2) 各項目の配分と規定枚数

「表紙」1枚、「Background to study」2枚、「Summary of study」5枚、「Advantage of this study over competing studies」2枚、「Plan for practical application and collaboration with companies」1枚、「Reference (Patents/ Background materials)」1枚、「Related Information」1枚の全13枚が標準となりますが、全16枚までは許容範囲させていただきます。

3) スライドのサイズ(4:3)

本資料は配布を目的としておりますので、スライドのサイズは標準(4:3)で作成をお願いいたします。パワーポイント2013で初稿フォーマットを開いた場合、ワイド画面(16:9)で表示されるケースがあります。その際には、「デザイン」→「スライドのサイズ」から標準(4:3)を選択いただき、資料の作成開始をお願いいたします。

「表紙」について

1) フォントサイズ

- ・ タイトルは日本語で32ポイント以下、英語で24ポイント以下、日英併記、所属氏名は20ポイント以下で日本語と英語の併記をお願いいたします。
- ・ 所属のロゴや写真などは挿入しないでください。

2) 所属と氏名

- ・ 独立行政法人などの設立根拠法の記載は割愛させていただきます。
- ・ 所属と役職（教授、准教授、センター長など）は、企業が確実に連絡できるよう、主となる大学、研究機関に限定して記載してください。英文での所属および氏名もご記載いただくため、文字ポイントが小さくなるのが理由です。

3) タイトル

- ・ ご研究の成果物を明確に表示したタイトルお勧めいたします。成果物には下記のものがありますが、事務局がご提案する仮題を基にご検討をお願いいたします。
- ・ 抗体医薬、ペプチド医薬、核酸医薬、遺伝子治療や再生医療などの場合には、対応できる企業が限られる場合がありますので、タイトルに盛り込むことをお勧めいたします。
- ・ 英文でのタイトルもご記載ください。

創薬関連項目

- ・ 創薬標的
- ・ リガンド、試薬
- ・ スクリーニング法、アッセイ法
- ・ ヒット化合物、リード化合物（低分子化合物、抗体、ペプチド、核酸、等）
- ・ 疾患の動物病態モデル（ノックイン、ノックダウン）
- ・ 疾患の診断（マーカー等）
- ・ 医薬品候補物質

創薬基盤技術

- ・ アジュバント
- ・ DDS 技術
- ・ 製剤技術
- ・ 創薬関連技術

「Background to study」について

1) 項目タイトルと番号

“Background to study” が複数（ページ以上）になるときには、下記のように【・・・(番号)】としてください。

Background to study (1)

Background to study (2)

2) 簡明な研究の背景記載

サブタイトルを活用いただき、当該技術領域の現状、本研究に着手した経緯、将来における本研究の必要性、などの記載をお願いいたします。

3) 1st indication (有望な臨床適応)

創薬研究の場合には「当該創薬技術から生み出される薬はどの疾患治療薬が有望か？」が重要です。汎用性が高く広い疾患への応用が考えられる技術の場合には、先生が最も有望と考えられ、また、データが充実している疾患名を中心に記載をお願いいたします。

「Summary of study」について

1) 項目タイトルと番号

“Summary of study” が複数に（2ページ以上に）なるときには、下記のように【・・・(番号)】としてください。

Summary of study (1)

Summary of study (2)

2) 実験結果の図

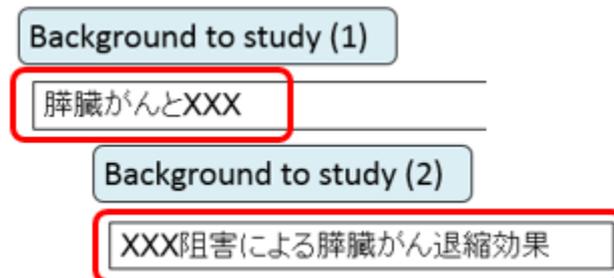
実験結果が共同研究の大きな判断材料になります。簡明で魅力的なデータのご提示をお願いいたします（公開可能な情報のみで作成をお願いいたします）。

学会発表のスライドをご活用いただけますが、口頭説明がありませんので、下記のような項目が重要となります。

3) サブタイトル

各スライドにサブタイトルの記載を、お願いいたします。例えば、「当該技術

による遺伝子欠損マウスの効率的な作成方法」「本技術の経口投与の安全性評価」「本技術により薬物の脳内移行性を著明に改善した」「本技術による siRNA の血中半減期の著明改善」「本技術によるターゲティング効果」「当技術をもちいた癌組織から創薬標的の探索」など、実験の目的や結果を示すサブタイトルの記載をお願いいたします。



4) 十分な説明

技術の解説、実験方法（使用動物・細胞、投与量・添加濃度、投与ルートや期間）や実験結果のグラフ等の説明が、口頭の説明無しで理解出来るわかりやすい表記をお願いいたします。

5) 略語の説明

当該技術、当該疾患・研究領域の専門家でなくても分かるように、一般的な略語には非省略語の併記・脚注をお願いいたします。

「Advantage of this study over competing studies」について

1) 項目タイトルと番号

“Advantage of this study over competing studies” が複数（2 ページ以上）になるとときには、下記のように【・・・(番号)】としてください。

Advantage of this study over competing studies (1)

Advantage of this study over competing studies (2)

- ・企業では、既存の薬や技術に対する優位性を、最も重要視いたします。企業サイドからは、「実用化を考えた場合、新規性だけでは優位とはいえない」という声が多く聞かれます。
- ・基礎研究の場合、先生の独自の研究で発見された未知のリガンド等、病態解明の情報、アッセイ系構築や病態モデルが優位性につながります。
- ・基礎研究の段階では、比較技術やデータがなく未検証の場合が多いですが、

得られているデータやロジックからの推測（期待）も含めて、当該技術の既存の技術領域のゴールドスタンダード（多く使われている技術）と比較した優位性を明記いただくと、先生の研究成果がアピール出来ます。

2) 基礎研究での優位性

基礎研究での優位性を「研究概要のまとめ」として具体的かつ簡明に記載をお願いいたします。いずれも、未公開の場合には他社に先駆けて創薬研究をスタート出来るため優位性につながります。

記載例)

- ・本技術を用いることにより、最短〇ヶ月で〇〇モデル動物の作出が可能となった。
- ・近年、〇〇疾患の発症機序として提唱されている「〇〇仮説」と合致した動物モデルである。
- ・高難溶性医薬品に対して、従来の XX より安全性が高くより優れた溶解性改善効果が期待できる。
- ・本技術を用いることにより薬剤の脳移行性を顕著に上昇させることができる。
- ・動物での長期投与実験において、毒性が確認されなかった。
- ・本技術により siRNA の血中半減期が、XX 倍延長した（AUC が YY 倍となった）。

3) 競合研究に対する優位性

基盤技術を含む創薬研究では、ゴールドスタンダードの治療薬や技術との差別化（優位性）が必須となります。仮説で結構ですので、可能な限りベンチマーク（対照薬・技術）の記載をお願いいたします。

4) 競合品（競合技術）との比較の項目（例）

競合品（技術）やゴールドスタンダードに対する優位性には、つぎのような項目があります。

- ・有効性（技術の場合には標的臓器への移行性、精度や感度等）
- ・利便性（技術の場合には操作性、QOL の向上関連事項等）
- ・安全性や副作用等
- ・経済性（製剤／原薬の製造コスト大幅低減、臨床用量の大幅低減、効率の改善）

「Plan for practical application and collaboration with companies」について

1) 項目タイトルと番号

“Plan for practical application and collaboration with companies”が複数（2ページ以上）になるときは、下記のように【・・・(番号)】としてください。

Plan for practical application and collaboration with companies (1)

Plan for practical application and collaboration with companies (2)

2) 今後の研究計画

研究のゴールや今後の研究計画の記載をお願いいたします。

3) 今後の課題や予想されるハードル

ゴール達成のためのハードル（課題）の記載をお願いいたします。

4) 大学と企業の分担

- 大学の分担：先生が希望される項目
- 企業の分担（支援）：下記の項目がありますが、最終的には相談の上で決定されます。希望される主要な項目で結構ですので記載をお願いいたします。
 - ・知的財産の確保（特許の出願、審査請求）
 - ・サンプル薬剤を用いての薬効薬理試験や安全性試験の実施
 - ・前臨床試験パッケージの取得
 - ・臨床試験の実施（担当）

「Reference (Patents / Background materials)」について

1) 本件に関する所有特許（申請中を含む）

特許申請されている場合には、記載をお願いいたします。出願番号等は必要ございません。

出願特許が公開されている場合には、公開番号の記載をお願いいたします（必須ではございません）。

2) 本件に関する主要な論文、文献

直接関係する主要論文（自著、共著、他著問わず）がございましたら、記載をお願いいたします。

「Related Information」について

1) 本提案に関するキーワード

データベースに収録いたしますので、検索でヒットさせるためのキーワードの記載をお願いいたします。

2) 本提案以外に利用が想定される疾患領域（臨床適応の拡大等）

当該創薬技術で、本提案で言及いただきましたもの以外で想定される疾患がございましたら記載をお願いいたします。

以上